

復活祭(イースター)主日礼拝説教要約
キリストとともによみがえらされた

(コロサイ3:1-11)

一、万人に語られている真理

コロサイ人への手紙に書かれている内容は、万人に語られていることばです。もちろん聖書は万民に語られていることばですが、コロサイ書が聖書に加えられる前から、ごく特定の人々に宛てられたものではありませんでした。回覧された書簡でした。また11節に「ここには、ギリシア人もユダヤ人もなく、割礼のある者もない者も、未開の人も、スキタイ人も、奴隷も自由人もありません。キリストがすべてであり、すべてのうちにおられるのです。」とあります。ギリシア人もユダヤ人もなく、割礼のある者もない者も、未開の人も、スキタイ人も——スキタイ人は「粗野な者」の意味です——、奴隷も自由人も、とあります。ならばそこに、「日本人も」ということばを加えて良いわけです。

そういうわけで、「私に、あるいは私たちに語られていることばである」と受け止めて読んでいただきたいです。

二、キリストとともによみがえらされた

1節をご覧ください。へこういうわけで、あなたがたはキリストとともによみがえらされたのなら、上にあるもの

を求めなさい。そこでは、キリストが神の右の座に着いておられます。」とあります。コロサイの人々は、否コロサイに限らず、当時の人々は様々な教えに縛られていました。迷信的なものもありました。そちらの方が多かったことでもありましょう。どこも同じです。私共は時代と文化を超えて様々なものに縛られています。そういう私たちにパウロは、と言うよりも聖書は語っているのが1節です。へこういうわけで、あなたがたはキリストとともによみがえらされたのなら、上にあるものを求めなさい。」と。

私共、主イエス・キリストを救い主と信じる者は、キリストとともによみがえらされました。どのようなようにして、でしょうか。2章12節で語られています。へバプテスマにおいて、あなたがたはキリストとともに葬られ、また、キリストとともによみがえらされたのです。キリストを死者の中からよみがえらせた神の力を信じたからです。」と。バプテスマとは、ご存じのように、主イエス・キリストを信じる者が受ける入信儀式です。バプテスマを受けるとは、すなわち洗礼を受けるとは、キリストと一体になることを意味します。十字架にかかられた主イエス・キリストと、死者の中から復活させられた主イエス・キリストと一体になるのです。キリストが十字架で死なれた時、私の古き人

「罪」に縛られた古き人も死んだのです。そして、キリストが死者の中から復活させられた時、私も新しい人に復活させられたのです。そういうわけで、バプテスマの儀式には神の恵みが現れています。

主イエス・キリストを信じてバプテスマを受けた者は、霊において、すなわち私たちの内にある神が創造されたのちにおいて、よみがえって新しくなりました。ならば当然のこと、私共は上にあるものを求めるべきです。上とは神がおられる所、キリストがおられる所です。へキリストが神の右の座に着いておられます」は、もちろん比喻ですが、良く分かることばです。神と等しくなられたという意味です。そういうわけで、キリストを信じた者は、これまでと同じく世に生活をしていきますが、内面は変えられました。新しくされました。聖なる神のみ住まいに住んでいるのです。こうして、信じる前は楽しいと思っていたことでも、信じた後は空しく感じるようになることが多くなります。

三、教会生活の大切さ

さて、ここ数か月、私が霊的に強く語りかけられていることがあります。御霊の働きだと信じております。それは、信仰生活とは教会生活であるということとです。ヤコブ書2章14節に、へ私の兄弟たち。だれかが自分には信仰がある

と言っても、その人に行いがないなら、何の役に立つでしょうか。そのような信仰がその人を救うことができるでしょうか。」とあります。聖句における「行い」を「教会生活」に入れ替えることができますと思います。「私の兄弟たち。だれかが自分には信仰があると言っても、その人に教会生活がないなら、何の役に立つでしょうか。そのような信仰がその人を救うことができるでしょうか」

と。その「教会生活」には、礼拝を献げることを始め、献金も含まれます。「信じている」と言いながら、教会生活がないのなら、そういう人の信仰生活は、神の前に全うされていません。もし主イエス・キリストを信じているというなら、教会生活を大切にしてください。それによって悪の力に打ち勝ち、すなわち罪の力に打ち勝ち、罪の誘惑に打ち勝ち、すなわち悪魔の誘惑に打ち勝つことができます。諸事情で礼拝に来られない方は、月に1回でも礼拝に来られるように努力してください。あるいはオンラインで礼拝を献げてください。オンライン礼拝で大切なことの1つは、献金をしっかり献げて、次回教会に来た時に、礼拝献金と一緒に、蓄えたものを献げることです。これをしないと、礼拝を献げたのかどうかも分からなくなってしまうからです。

主にあって、いのちの続く限り、成長させていただけますように。